

大町市立学校通学区域再編に関わる市民説明会【意見交換要旨】

開催日時：令和2年10月27日（火）18時30分～20時

開催場所：サンアルプス大町

質問	市民アンケート1000人18歳以上とは、無作為に選んだものか。また、回収率40%についてどのように考えたのか。保護者へのアンケートの結果は、「学校の数の適正配置を再検討する」と「現在の学校数を維持する」は、同じくらいであるが、それはどのように考えて検討委員会で検討したのか。
回答	市民アンケートは、市民1,000人無作為で抽出。回収率約40%は、信頼度はかなり高い結果と考えている。お示しした保護者アンケートは、要点をまとめてあり、詳細は、あり方検討委員会の報告書に掲載している。少子化の中で学校の数をどうすることが望ましいかとの問いについては、回答に地域によって差が見られた。そのことも踏まえてあり方検討委員会で議論していただいた。

質問	市民アンケートは、どうして無作為だったのか。保育園幼稚園に通っている、今後、小学校中学校に就学する子どもたちの保護者をなぜ対象にしなかったのか。
回答	現在の環境をどの様に感じているかという生の声を聞くという部分で、小中の保護者全員を対象とさせていただいた。実際に学校再編の話になってきた場合、地域コミュニティの核という位置づけが学校にはあり、市民全体にどういう意識であるか確認するために無作為抽出して実施した。 就学してくる児童の保護者の方にとりたてて実施していないが、実際の再編の審議会においては、あり方検討会の中でも保育園幼稚園の保護者の代表の方にも参加はいただいて、討論している。

質問	<p>コミュニティ・スクールが何かわからないので教えてほしい。</p> <p>大糸タイムスに大町市自体が移住の地域として魅力度が上がったという記事を見た。少子化が懸念されている市でありながらも魅力度が上がっていくというところがある。通学区だけでなく少し特徴を持った小中学校にしていく機会でもあると思うが。</p>
回答	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律にコミュニティ・スクールが定められており、学校運営協議会を置いている。学校運営協議会は、学校運営に住民組織の代表が参画するというもの。学校の人事も含め、住民代表のみなさんが意見を言うことができるほか、住民のみなさんが一緒にボランティア活動や学校支援に参加していく仕組みとなっている。そのような学校をコミュニティ・スクールという。</p> <p>市内すべての学校で学校運営協議会を設置し取り組みを進めている。各校により取り組み状況は異なるが、移住される方が大町市に魅力を感じる理由の一つに、学校教育も寄与していると考えている。</p> <p>例えば、小学校の高学年から中学校と同じように専科の先生による指導が行われ、子どもたちが互いに学び合うことを実践し、海外へのホームステイや山村留学という特色のある学校がある。</p> <p>他の学校も、協働の学びにより子どもたちが教えあったり学び合ったりする指導を取り入れており、少しずつ大町市の教育に対する評価を上げていただけていると推察する。</p>

質問	<p>市民アンケート結果の、回収率 40%で信頼できるとした根拠は何か。</p>
回答	<p>あり方検討委員会において内容を検討し、実施したアンケートである。検討委員会のメンバーの識見を有する大学の先生からも、統計上、信頼度が高い値であると助言をいただいている。</p>

質問	<p>八坂美麻は現状維持、将来検討するとのことだが、資料の美麻小中の出生者数は、一桁の状況である。美麻を現状維持とする理由を伺いたい。</p> <p>一方で、小規模学校の特色を生かした学校というが、児童生徒が切磋琢磨する機会が少なくなって組織的で機能的な子供の集団づくりが困難となる可能性がある、と矛盾した課題と結論がある。そこはどうかお考えなのか。</p>
回答	<p>八坂美麻の学校について、先ほど説明したアンケートをはじめ、通学に要する時間という部分を見た時に、例えば八坂の小学生がバスに乗ってくるということを現実考えた場合、通学に要する時間が長時間となることから、再編の対象とするという結論にはいたらなかった。</p> <p>また、山留生を受け入れているが、育てる会では、八坂、美麻地区に限って山村留学制度を実施している状況から、今回の再編の対象とするべきではないとなった。</p> <p>当面は、小規模校としての特色を生かしながら学校運営を行い、小規模特認校制度を継続するとともに教育上の役割を果たすことが望ましいことから、今回の再編の対象とはしないとの結論に至った。</p>

質問	<p>有識者からの助言があったからとはいえ、アンケートの回収率40%が、市民の意見が反映していると思うか。</p>
回答	<p>統計上の処理をすると、98%くらいの信頼度で、全体の意識を反映していると考えている。</p>

質問	<p>美麻や八坂の素晴らしい教育は残すことは、大賛成。手厚い中で支援されて、山村留学等、素晴らしい教育をしている。その精神をどうして旧市内の子どもたちに生かせないのか疑問。</p> <p>今、子供たちの現状をみると、7人に1人が貧困家庭、いじめの増加、不登校が増加をしている。大事に子供達を育ててはいけない時にこういう方向性がでてきて不安。コロナの中、文科省でさえ少人数がいいと、手厚くやろうという方向に動き出している。一人一人の子どもには大きな規模にするほど先生が少なくなる。本当に子供にどういう教育がいいのかということを考え、先生たちが子供達を見る方向に行くのか、さらに通学の時間が増すという統廃合計画については、もう一度やり直してもらいたいし、文科省でさえ定員を検討しているが。</p>
回答	<p>今年の1年生の入学状況は、北小が1クラス、西小も1クラスという状況で、各学年単級になっている。専科の先生が配置できるような学校規模を考えることも大事。</p> <p>また、文科省が少人数学級の検討を始めていることは、承知しているが、長野県では、独自に35人学級を実施している状況である。長野県にとっては、国の基準が長野県の基準に追いついたということだと思う。</p> <p>国が、さらに少人数にするというのであれば、それは確かに少人数での学習は効果的であると思うが、学校全体の行事等を考えた時に、本当にそれでいいのかという考え方もある。</p> <p>また、繰り返しになるが八坂、美麻については、通学の時間等考えた時にすぐには、今回の再編の対象にならないことをご理解いただきたい。</p>
回答	<p>八坂や美麻が進めている教育についてご理解いただいていることはありがたい。全国的にも視察等いただき評価が高いと思う。これも、山間地にもともとあった学校だから実現できたこと。新たにそのような学校を作ることは、今の制度ではできない。</p> <p>しかし、校舎の管理、行事の実施、いろんな部分を含めて先生方も大変なご苦勞をいただいている現状がある。</p> <p>検討会では、少人数による学習の効果、教員の配置、通学時間等、様々な観点から検討を行い、このような結論に至ったことにご理解願いたい。</p>

質問	<p>アンケートでは、1クラスあたりの児童生徒数 35 人以下を求めているものが多い。今、国で動いている少人数学級に見通したときにかなりいい流れ。例えば長野県は県独自で 35 人学級をやっているが、国も 35 人になればと思う。今の少人数学級になれば、教育長がよく言っているが、学級数が増えれば専科の先生もそれに合わせておくことができるし、その辺も考えながら進めてもらいたい。</p>
回答	<p>長野県では、小学校 1 年生から中学校 3 年生まで、国に先んじて 1 学級 35 人という基準を設けている。しかし、仮に国が全学年、1 学級 35 人とした場合に長野県が教員を増やすかどうかは不確定である。要望はしていきたいが、国が 1 学級 35 人とするのかどうかもはっきりしない。</p> <p>国では 10 年ほど前その方針を打ち出したが撤回し、現状は小学校 1 年生のみ 35 人。他の学年は 1 学級 40 人である。新型コロナウイルス感染症の影響でそういう議論が巻き上がってきていることは承知しているが、まだ見通しが立っていない。</p> <p>学校が再編されると、加配の教員が 1 人、専科の先生とは別に配置できる。私は、県教委にもっと充実すべきだと強く要望している。学校の再編は、子どもたちにとってより良い教育を実施していくためのステップにならないといけない。再編を学校教育の充実を図りながら進めていきたい。</p>

質問	<p>この統廃合の話が出てきて、どこの学校が合併する、どこの校舎を使うような話を聞くが、実際どの程度話があるのか。実施時期で何年後までに中学を統合するとか具体的なことは現段階でどうなっているのか。</p>
回答	<p>審議会における内容であるが、6 月に第 1 回を開き、学校の現状や児童数の推移や先ほど説明した検討委員会の報告について認識を共有していただいた。第 2 回は、およそのスケジュールを示して欲しいとの要望で、素案としての日程について協議した。</p> <p>具体的に学校がどうなるかについては、ただいま審議中である。例えば中学校については、2 校を 1 校にすることについては、第一中学校を使った場合、あるいは仁科台中学校を活用した場合の比較検討の資料を出して審議していただいている途中である。</p> <p>小学校については、就学中の児童、また就学予定の子どもたちがどのように分布するのか地図上に示し、通学区域の検討を始めた段階である。まだ具体的には決まっておらず、審議中である。</p>
回答	<p>補足する。先ほど申し上げたように、ご答申いただいても、もう一度市民の皆さんに説明して意見をお聞きしたいと考えている。</p>

	<p>市民の皆さんからいただいた意見は最大限尊重しなくてははいけない。その上で教育委員会として慎重に審議させていただき、最終的な決定をしていく。</p> <p>今、お答えした通り、まだ学校がどこをどうするとかの話にはなっていない。</p>
--	---

質問	具体的な時期もまだしっかり決まってないのか。
回答	<p>中学校については、できれば 2 年位の内の開校に向け、具体化していきたい。</p> <p>小学校については、校舎等の整備などが予想されるため、その先 2, 3 年間を要し、令和 7 年、8 年に開校することが検討されている。</p> <p>再編の時期については、審議会の審議事項であり、まだ結論が出だされていない。</p>

<p>質問</p>	<p>市全体としてどんな市を作っていくか、子どもや大人がどうやって幸せな市にしていくかという中で再編を考えていただかないと、ただくっつけるだけではいけないと思う。</p> <p>各自治会を大切にしていくのが大きな柱である。ということは常盤、社、大町、平の4つの行政区を分断しないような学区編成をしていきたいと考えているのかと思うと、具体的にどの辺に学校を作るのかということも何となく分かると思う。あと2年後となっていくと、もっとオープンに言っていただいて、意見が得られるといい。</p> <p>危惧されるのは、通学の問題。中学が1校になると全部の子たちが通学するのに、どんなイメージを持っているのか。受験勉強、クラブ活動、部活動もたくさん集まれば盛んになると言っているが、大変なことではないか。小学校が1校になった時に、スクールバスを使ったとしても、実際には自分の車で送り迎えすれば20分くらいのところをバスだと1時間位かかる。1年生がバス1時間かけて通学するのはすごく大変なこと。実際に学校生活していると、放課後子どもたちが勉強したいとか、民間活動でいろんなことやりたいとかあると、通学バスの関係でそういうことができない。そういうことも踏まえて、本当に2校にすることがいいのかということも拙速に5年後とかではなく、しっかりと検討して市民の意見も聞きながら進めていただければありがたい。</p>
<p>回答</p>	<p>市全体のビジョンがありそれに向け施策を展開しているが、教育委員会で担う施策に力を尽くしたい。あり方検討委員会の提言の中に、幼保小中の一貫教育の実現のため、総合的なビジョンを策定することについても提言をいただいているので、その辺を踏まえ、審議会で詰めていきたい。</p> <p>再編の時期の問題について、審議会の中で議論する際に、保育園幼稚園の保護者代表の皆さんから、やはり自分の子どもがいつの時点で影響があるのか知りたいので目安を示して欲しい、ということから示したものに、2年後に中学校、その2、3年後に小学校とあるだけで、実際には、時期についても再編審議会から答申をいただくことになっている。</p> <p>通学については、子どもに負担がかかるようではいけないと考えている。現状学校の位置を基本に学校を再編していく考え方であるが、通学の時間等を考慮して決めることとしている。</p>
<p>回答</p>	<p>中学校と小学校は全く違う状況にあると思う。中学校は全市1つということになると、まとまり方も早いと思われる。小学校については、程度時間をかけながら進めていかないといけない。</p> <p>基本的な方針としての、中学校1校、小学校2校ということにつ</p>

	<p>いてはご理解いただきたい。</p> <p>バス通学については、仁科台と一中が近距離にあることや、既に両校とも多くの生徒がバスを利用していることから、大きな影響はないと思われる。小学校の通学区等については、ご意見を参考に十分検討してまいりたい。</p>
質問	<p>美麻に子どもが通っていて、少人数で先生にみていただき、地域の人にも活発に入っていて、本当に良いと思っている。少人数の良さがすごくある。大町として特色のある学校を打ち出すというのも大事だと思う。美麻の学校を気に入っていて、大町の方でも移住者を増やそうという流れもあり、少人数の良さというところに、焦点をあてて極力学校を減らさない形で検討いただきたい。</p>
回答	<p>美麻小中学校、八坂小、八坂中学校については小規模校の特徴を活かした特色のある学校になっている。いずれも当面は、存続し大町市の教育に大きな役割を果たして欲しいと考えている。</p> <p>しかし、すべての学校で同様な学校運営を行うことはできない。</p> <p>今回の再編は、より良い教育環境の実現に向け、旧市内の4地区について検討していくという結論だと理解をしていただきたい。</p>

質問	<p>通学区の見直しに、文科省の方針として編成するということが小学校2校と中学校1校にすることはいつ決まったのか。</p>
回答	<p>学校規模については、文科省による一定の標準はあるが、資料にあるように地域の事情等がある場合、その限りでないこともある。</p> <p>大町市においては2年間かけて少子化に伴う課題について検討を重ねてきた。様々な課題を整理し検討した結果、提言では、文科省の標準を基本として通学区等を考慮し、小学校4校を2校、中学校2校を1校にといった内容で、課題を解決するためにはその方が望ましいという提言をいただいた。検討の中には3校あるいは1校ということもあったが、結果、小学校は2校、中学校は1校という結論に至った。</p> <p>この提言を受け、法律に基づく総合教育会議において再編審議会を設け具体的に検討していく方針を決定した状況である。</p>

質問	<p>先生が足りないというのは、先生になる人がいないのか、それとも制度上足りないということなのか。アンケートをもとに、委員会の方でメリットデメリットを相当話し合ったと思うが、一旦市民の皆さんに見てもらって、その上でもっと吟味する必要がでてくるのではないか。わかりやすく伝えてもらい、進めていくという過程にしてもらいたい。</p>
回答	<p>基本的にまず市町村の学校は市町村の教育委員会が責任を持つが、教職員だけは県費教職員といって市町村が雇うわけではない。県が基準で配置をしてくる。県は35人で1学級に1人の基準で配置。よって先生になり手がいないということではない。今日示した資料は、すべて市の広報。それぞれの時期に広報で皆さんにお知らせし、ご意見があったらお寄せいただくことになっている。同時に、教育委員会、学校のメールアドレスにも全部公開して、意見があったらお寄せ下さいと呼びかけをしている。市民の皆さんにできるだけお知らせしながら、ご意見をいただくという姿勢で望んできているということをご理解いただきたい。</p>

質問	再編すると、子どもたちに対する先生の数が増えるという解釈か。
回答	再編した場合、一般的には教員は減る。しかし、それは、校長や教頭などであり、教員の配当は学級数で基準が設けられているので、再編により学校規模が大きくなることで専科教員等が配置されることから、充実した指導を行うことができる。

質問	先生が足りないというのはどういうことか。
回答	<p>小学校の音楽、理科等の専科の先生は、基準では6クラス以上で1人配置。14クラス以上あると2人配置となる。6クラス以上あると音楽の先生を配置し、14クラス以上あると理科の先生を置くというのが一般的である。</p> <p>現在の市内の小学校は、学級数が少ないため、ほとんどの学校で理科の先生が配置されていない状況にある。再編し、学級数が増えることにより理科の先生が配置されることが見込まれる。</p>

意見	<p>スマホで検索して見つけたが、大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会の報告書についてというページにいろいろ載っている。今まで議論した記録だと思うので、また後でゆっくり見たい。</p>
----	---